

## 第6学年 総合的な学習の時間指導案

期 間 8月～11月

本 時 平成16年10月5日(火) 5校時

児 童 男23名 女10名 計33名

指導者 市村 康之

### 1. 単元名 「海を守ろう」

### 2. 単元のねらい

海を守るという視点を持って、海の環境に関わる課題を設定することができる。

調べる観点を明確にし、目的に沿った方法で海の環境について調べることができる。

伝えたいことを明確にしたまとめ方や発表の仕方を工夫することができる。

海の環境保全に対する意識を高め、環境を守る実践力を養うことができる

### 3. 単元について

この地域の海は、暖流と寒流がぶつかりあい、多種多様な魚介類が獲れる世界有数の漁場でもある。そのため、児童の家族においても、漁師としての漁業だけではなく、様々な形で海に関わる仕事に従事しており、家族の仕事と海は密接な関係にある。また、釣りや海水浴などの遊びや、一年に一度行われる学校浜での体験活動を通して、海への愛着を持たせるとともに、海は自分たちの生活に欠かせない存在であるという意識を育んでいる。しかし、世界有数の漁場でありながらも、環境の変化に伴い、魚介類の一部は漁獲量が年々減少している傾向にある。これは、水質や水温など様々な海の環境が変化しているだけではなく、山や川の環境、さらに人間の生活が大きく関わっていると考えられる。

こうしたことから、身近に感じている「海」を題材として取り上げ、学習活動を展開することは、環境問題に関わる課題意識を持ち、児童が主体的に学習を進めていくことができるものとする。また、自分たちの地域にとって、いかに海が大切なものであるかを再認識できるきっかけとなるとともに、海の環境を自分たちの手で守っていこうとする意識を育てることができるものであると考え本単元を設定した。

### 4. 児童の実態

児童は、海での遊びを通して、海についての関心を高め、愛着を深めている。また、家族からの話や、体験を通して海に関わる知識を深めている。しかし、様々な作用により海の環境が保たれていることについては、これまで深く学習したことがないために、十分理解されていないと考えられる。そのため、海を大切にしなければならないという意識はあっても、どんなことをして海の環境を守っていくか明確には考えられていない段階である。

本学級の児童は、興味を持ったことに対して大変意欲的に取り組むことができるとともに、独特な考えやユニークな考えを持つことができる。しかし、改まった場になるとなかなか発言できないという実態がある。そのため、本単元では特に話す・聞く力を伸ばせるよう配慮しながら学習を進めていきたい。

児童はこれまでに「綾里の漁業をさぐろう」(4学年)で海の仕事について調べたり、「昔の海を調べよう」(5学年)で津波について調べたりしながら、海に関するテーマを学習してきた。また、6学年では、「ボランティアって何?」で、ボランティアとは何かということに焦点を当てて調べた。学習を展開する上で課題となるのは、調べるための目的を明確にし、見通しを持って活動することである。そのため、体験を通して、様々な話を聞くことにより、海の環境についてしっかりと興味関心を持たせられるよう配慮していく必要がある。

5. 指導にあたって

出会う段階では、海は大切なものであるかどうか、自分の考えをしっかりと持たせた上で学習活動を展開させていきたい。また、綾里川の水質調査をしたり、綾里川の上流にある不動滝の水に関わる話を聞いたりする中で、山・川・海の環境が密接に結びついていることを考えさせた上で、海の環境を守るための課題を設定できるようにする。そして調べたことを互いに発表し合う「海の環境サミット」を開き、海の環境に関する知識や考えを深めさせるとともに、海の環境保全のために自分たちでできることは何かを考えさせていく。さらに、地域の人たちに情報を発信できる場を設定し、目的意識を持って学習活動が展開されるよう配慮する。また、単元を通して海という身近な素材を扱う中で、地域から徐々に視野を広げ、地球全体に目を向けた環境保全の意識を持たせたい。

本単元では、人から話を聞いたり、自分の考えを話したりする活動が多くなると考えられる。そのため国語科の目標「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる」の指導を重点項目として、特に国語科との関連を図りながら指導していきたい。また、学習内容が関連する理科、家庭科については、総合的な学習で学んだことを具体的に考えるきっかけとして生かせるよう意図的・計画的に取り入れていきたい。

6. 指導計画(35時間)

内容関連                      スキル関連

流れ	時間	学習活動	教科領域との関連	具体的な単元名
出会う	3	・川の水質調査をし、結果をまとめる。	理科 A生物とその環境 (2)ウ	理科「生き物のくらしとかんきょう」
	3	・海の環境に関わる話を地域の人から聞く。	国語 A話すこと・聞くこと (1)イ	国語「聞くということ」 (要点をおさえながら聞く)
	1	・海の環境に関わる課題を設定する。	道徳 3-(1)	「かけがえのない地球」
見つめる	2	・調べるための見通しを持つ。	家庭 (8)	家庭「近隣の人々との生活を考えよう」 国語「ガイドブックを作ろう」 (伝えたいことを効果的にまとめる)
	8	・グループごとに課題を調べる。		
2 本時 1/2	6	・調べたことを効果的にまとめる。	国語 A話すこと・聞くこと (1)ア B書くこと (1)ア、イ	国語「学級討論会をしよう」 国語「二つの意見から」 (効果的に話し合う)
		・調べたことを発表し合い、話し合う。 【海の環境サミット】	国語 A話すこと・聞くこと (1)ア、イ	
広げる	7	・地域の人への情報発信の準備をする。	国語 A話すこと・聞くこと (1)ア	国語「学級討論会をしよう」 国語「二つの意見から」 (効果的に話し合う) 社会「地球の環境と平和」 国語「海の命」
	2	・地域の人へ調べたことを伝える。【地域発表会】	社会 (3)-イ 国語 C読むこと	
	1	・テーマ作文「海」を書く。	国語 (1)イ	

## 7. 評価規準

流れ	主な活動	課題をみつける力	問題を解決する力	豊かに表現する力	生き方を考える力
出会う	課題の設定	海山川の関連を 考え、広い視野 で海の環境に関 わる課題を考え ることができる。	自分の予想を立 てて、目的を持 って調査した り、話を聞いた りすることができる。		海の大切さ、海 山川の環境の関 連を考えること ができる。
見つめる	課題の追求 ・課題を調べる。  ・海の世界サミット	海の環境に関わ る環境問題や環 境保全の具体的 方法を調べるた めに、何を調べ ていけばよいか 考えることがで きる。 自分の考えと比 べながら発表を 聞き、考えを深 めることができる。	目的をもって、 図書・インター ネット・人から 聞くなどの方法 を用いて調べる ことができる。  互いに発表し合 う中で、より効 果的な発表方法 を考えることが できる。	調べたことを明 確に伝えられる ように工夫して まとめることが できる。  声の大きさ、速 さなどを工夫し て、分かりやす く発表すること ができる。	互いに発表し合 う中で、海の環 境について考え を深めることが できる。
広げる	まとめ ・地域発表会  ・テーマ作文	目的を持って地 域発表会に向け ての準備・発表 ができる。	何を伝えたいか 明確にして、地 域へ情報を発信 することができる。	海の世界に対す る自分の思いを 伝えられるよう 工夫する。	海の世界、環 境保全に対する 考えを深めると ともに、進んで よりよい環境を つくろうとする 気持ちを持つこ とができる。

## 8. 本時の指導

### (1) ねらい

伝えたいことを明確にして、相手に伝わりやすいように話すことができる。

話し手の意図や要点をおさえながら聞き、海の世界について考えを深めることができる。

### (2) 基礎・基本の定着を目指して

国語 A 話すこと・聞くこと

ア 考えたことや自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

イ 話し手の意図を考えながら話を聞くこと。

### (3) 本時の流れ

あらかじめ各グループが発表後に「話し合っほしい」と考えるポイントを各自に知らせておき、事前にそれに対する考えを持たせておく。そして、導入段階では、「環境サミット」は互いに海の世界についての知識や思いを深める場であることや発表のしかた・聞き方の観点をしっかりと確認することにより、目的を明確に持って各グループの発表を聞けるようにさせる。

展開では、互いに意見を交換しあって考えを深められるようにするために、事前に考えた自分の考えと比較しながら話が聞けるようにさせる。また、国語の既習事項と関連させた話し合いの形態や学習シートを活用し、より充実した話し合いができるようにする。

(4) 展開

	児童の活動	支援 基礎・基本の定着	評価
導入 (7分)	<p>1. 本時の学習活動を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>考えを深めよう！ ～海の世界サミット～</p> </div> <p>2. 発表のしかた・聞き方についての観点を確認する。</p>	<p>本時は各グループの発表を聞き、意見を交換する中で、互いに考えを深められるようにする時間であることを確認する。</p> <p>以下の観点を確認し、話す・聞くことに対しての意識を高めさせる。 (話す) <u>伝えたいことがわかるように</u> はっきりと 速さを考えて (聞く) <u>自分の考えと比べながら</u> なるほど・初めて知った もっと詳しく知りたい 考えの同じ点、違う点は</p>	<p>話す・聞く観点をつかむことができたか。 (挙手)</p>
展開 (33分)	<p>3. グループごとに発表する。</p> <p>4. 発表をもとに海の世界について話し合う。</p>	<p>国語「二つの意見から」での話し合いの形態や学習シートの形式を利用し、話し合いを深めさせる。</p> <p>話し手には「話し合ってほしい」ポイントを最初に話させる。また、聞き手には事前に考えたことと比較しながら聞くようにさせる。</p> <p>意見のもととなる根拠をはっきりとさせて発表させる。 賛成・反対の立場をはっきりさせた意見や疑問点を出し合う中で、更に考えが深められるようにする。</p> <p>各グループの発表のよさを認めるとともに、話し合いの中で深められた考えを確認する。</p>	<p>伝えたいことを明確にできるよう発表できたか。 (発表)</p> <p>発表を聞いて考えを深めることができたか。 (記録・発表)</p>
終末 (5分)	<p>5. 本時の学習を振り返る。</p> <p>6. 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>学習シートに感想・自己評価を書かせる。</p> <p>本時での話し方・聞き方のよさを認め、意欲付けを図る。</p>	<p>海の世界について考えを深めることができたか。(記録)</p>